

日銀の視点

弘道館公園の梅の木は芽吹き
の季節を迎え、新たな若葉に
包まれ始めている。県内企
業の経済活動を見ると、新
型コロナウイルス感染症の影響
が1年を超える中で、少しず
つ新たな変化が見られるよ
うになっている。そこで、四半
期ごとに公表している統計調
査（企業短期経済観測調査、通
称「短観」）の茨城県内の結果
を振り返った上で、企業活動
の変化の兆しを紹介したい。
短観で最も注目されるのは

日銀水戸事務所長 鈴木 直行

業況判断DIという指数で、
業況が「良い」と答えた企業
の割合から悪い」と答えた企
業の割合を差し引いて算出さ
れる。4月1日公表の3月分
の結果を見ると、非製造業は
サービス業を中心に悪化した

ービスなどの業況が悪化して
いる。他方、製造業では国内
外での経済の持ち直しに伴
い、農業・建設機械関連、自
動車関連、IT関連などの需
要が回復している。

次に、茨城県内の短観の結
果のうち、企業の設備投資と
雇用に関する項目を見てみた
い。まず、2021年度の設
備投資計画を見ると、前年度
の大型投資の反動などから、
全体では前年度を下回る計画
となっている。ただし、計画

の前身を見ると、一部に前年
度に凍結した計画を復活させ
る動きや、デジタル化を推進
する動きに加え、新たに事業
再構築に向けた投資に取り組
む動きも見られており、企業
の前向きな投資姿勢もつかが
われる内容とな
っている。

企業活動に変化の兆し

一方、製造業では幅広い業種
で改善し、全産業では三四季
期連続での改善（12月プラス
3→3月プラス5）となった。
背景を見ると、非製造業で
は感染症再拡大の影響から宿
泊・飲食サービスや対個人サ

果のうち、企業の設備投資と
雇用に関する項目を見てみた
い。まず、2021年度の設
備投資計画を見ると、前年度
の大型投資の反動などから、
全体では前年度を下回る計画
となっている。ただし、計画

て、サービス関連の非製造業
では事業再構築を促進する補
助金を活用しつつ、非接触型
サービスや宅配サービスを導
入し、消費者行動の変化を捉
えた新たな収益基盤の確保を
目指す動きが出てきている。

「人手不足で補充が追い付か
ない」との声も聞かれており、
製造業の一部で労働需給が引
き締まる様子が見られる。
今後は感染症による影響を
引き続き注視するとともに、
事業再構築や雇用などを巡る
企業活動の新たな変化にも注
目していきたい。

（次回は5月8日掲載）